

## 第3回 今治市廃棄物減量等推進審議会 会議録

1. 日時：令和2年11月19日（木）午後1時30分～午後2時30分
2. 会場：バリクリーン1階多目的室
3. 内容
  - 1) 開会
  - 2) 出席委員の確認
  - 3) 議事
    - (1) ごみ減量等に関する施策について
    - (2) 一般廃棄物処理計画（案）について
    - (3) 質疑
  - 4) その他
  - 5) 閉会

### 4. 出席者

#### <委員>

村上 伸幸 委員、石見 和子 委員、水口 和幸 委員  
井手 克彦 委員、石崎美恵子 委員、長谷部眞一 委員  
森 敏夫 委員、村上 恵子 委員

#### <事務局>

##### 越智市民環境部長

(リサイクル推進課) 加藤課長、越智課長補佐、長谷部課長補佐  
村上課長補佐、村上係長  
(環境政策課) 八木課長、渡部課長補佐  
(委託業者) 株式会社建設技術研究所 林氏、池田氏

## 会議の記録（概要）

### 1 開会

### 2 出席委員の確認

- ・（事務局）委員12名中8名の出席により、本審議会が成立していることを確認した。

### 3 議事

#### (1) ごみ減量等に関する施策について

##### ○資料1 ごみ減量等に関する施策について

- ・（事務局）資料1に基づき、事務局より内容説明

#### (2) 一般廃棄物処理計画（案）について

##### ○資料2 一般廃棄物処理基本計画（案）について

- ・（事務局）資料2に基づき、事務局より内容説明

#### (3) 質疑

- ・（A委員）

特に「広報いまばり」はよく見られているツールである。イラストによるわかりやすい啓発やごみ減量に関する施策のポイントを記載してはいかがか。

→（事務局）

年に数回リサイクル通信という形で発信している。同通信の内容も含めて広報の方法は継続して検討していく。

- ・（B委員）

目標達成のためには毎年コンスタントにごみ減量を行う必要がある。施策がより浸透するよう、自治会単位での出前講座が有効であると考えます。

- ・（C委員）

現状の最終処分体制はほとんど委託によるものである。災害時を考慮して自前の最終処分場を確保することも必要ではないか。

→（事務局）

リサイクル率やコストなど、多面的な観点から検討していきたい。

・（D委員）

市民に対しては具体的な施策が講じられているが、事業者に対する指導・要請はどのように考えているか。

→（事務局）

現状ではあまり取組が進んでいないが、今後取組を強化していきたい。

・（D委員）

スーパーマーケットでは、生鮮食品や果物等で過剰包装が散見される。

→（事務局）

出来る限り指導等を行っていききたいが、市民にとっては過剰包装を行っていない商品を選択するよう呼びかけていきたい。

・（E委員）

環境教育は子どもの世代から実施することで意識の醸成につながる。

・（E委員）

生ごみの水切りをどの程度まで行えばよいか不明である。目安などを記載できるとよいと考える。

・（F委員）

施策を確実に実施できるよう、計画中の記載方法を再考すること。特に高齢者に対する施策は取組を強化していただきたい。

・（A委員）

目標達成には家庭系ごみの減量が特に重要であると考ええる。家庭系ごみに絞った施策を実施できるとよい。

・（G委員）

目標達成には生ごみの水切りが有効であると考ええる。ごみ集積所へ排出する際に地面が汚れないよう配慮できれば必然的に生ごみの水切りも進む。

#### 4 その他

・（事務局）

次回審議会を1月21日（木）の14時からの開催を予定している。

#### 5 閉会